

平成30年(2018年)10月30日

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウに対する薬剤の効果について

野菜・花き類でハスモンヨトウやシロイチモジヨトウ等のチョウ目害虫による被害が認められます。これら害虫を防除する際の参考としていただくため、薬剤の効果を検定しましたので、生産者への防除指導の参考にしてください。



記

1. 発生状況と今後の発生予想

- 1) 10月18日～24日に実施した定期調査では、イチゴ、キュウリ、タマネギ、アスパラガス、タマネギ、キクでチョウ目幼虫による食害を認めており、作物によっては平年より多い発生となっている。
- 2) 被害はハスモンヨトウとオオタバコガによるものが主体であるが、イチゴ、タマネギ、キクではシロイチモジヨトウによるものも認められている。
- 3) 11月の気温は平年より高いと予想され、施設では今後もこれら害虫の発生が継続する可能性がある。

2. 薬剤検定の方法与結果

ハスモンヨトウ

- 1) 農業試験研究センターが、平成30年7月下旬と8月下旬に県内のダイズ3圃場から卵塊または1齢幼虫を採集し、キャベツの葉片浸漬法により各薬剤の殺虫効果を調べた結果(詳細は、表1の注釈参照)、処理5日後の補正死虫率は、プレバソンフロアブル5、ノーモルト乳剤、プレオフロアブル、トルネード乳剤で80%以上と高かった。フローバックDFは約70~100%とばらつきがみられたが、効果が認められた。また、フェニックスフロアブルの補正死虫率は、2圃場から採取した本種に対しては90%以上と高かったが、残りの1圃場では37.9%と低かった(表1参照)。

シロイチモジヨトウ

- 1) 農業技術防除センターが、平成30年9月上旬に佐賀市川副町のダイズ2圃場から本種の幼虫を採集し、ダイズの葉片浸漬法により各薬剤の殺虫効果を調べた結果(詳細は、表2の注釈参照)、処理3日後の補正死虫率は、ディアナSC、スピノエース顆粒水和剤が90%以上と高く、また、コテツフロアブル、プレオフロアブルは約70~80%と効果を認めた。ディアナSC、スピノエース顆粒水和剤、コテツフロアブルは処理1日後に効果が認められたが、プレオフロアブルは遅効的で、処理1日後は低く、3日後に高まった(表2参照)。
- 2) 一方、プレバソンフロアブル5、フェニックスフロアブル、トレボン乳剤、ノーモルト乳剤、アフターム乳剤の補正死虫率は0~33.3%であり、殺虫効果は低かった。

3. 防除対策

- 1) 今回の検定は、ダイズから採集した幼虫等によるものであるが、野菜、花きで薬剤防除を行う際には今回の結果も参考とする。
- 2) 薬剤防除に当たっては、使用方法（適用作物、収穫前日数等）を遵守する。
- 3) その他の防除対策については、平成30年9月26日付け病害虫対策資料第7号参照。

表1 ハスモンヨトウに対する各種薬剤の効果（農業試験研究センター）

IRAC コード	農薬名 (成分名 濃度)	希釈倍率	補正死虫率(%)					
			A個体群		B個体群		C個体群	
			3日後	5日後	3日後	5日後	3日後	5日後
28	プレバゾンフロアブル5 (クロラントラニプロール 5%)	4,000倍	80.0	100	62.1	86.2	96.6	95.8
28	フェニックスフロアブル (フルベンジアミド 18%)	2,000倍	46.7	93.3	13.8	37.9	89.7	91.7
UN※	プレオフロアブル (ヒリタリル 10%)	1,000倍	93.3	100	93.1	100	72.4	100
15	ノーモルト乳剤 (テフルヘンズロン 5%)	2,000倍	53.3	83.3	48.3	100	96.6	100
11A	フローバックDF (BT(生菌) 10%)	1,000倍	76.7	100	93.1	100	65.5	70.8
22A	トルネードエースDF (インドキサカルブ 5%)	2,000倍	86.7	96.7	79.3	93.1	96.6	95.8

※ UN: 作用機作が不明あるいは不明確な剤

供試虫: 平成30年7月下旬または8月下旬に県内の大豆圃場から採集した3個体群。

試験方法: 直径9cmプラスチック製容器に湿らせたろ紙を敷き、クミテン3,300倍で希釈した薬液にを20秒間浸漬した直径6cmの大きさに切ったキャベツ葉片を2枚入れた。そこに人工飼料で飼育した3齢幼虫を1シャーレ当たり10頭を放飼した。試験は3連制で行い、25°C、16L-8Dで管理した。

表2 シロイチモジヨトウに対する各種薬剤の防除効果（農業技術防除センター）

IRAC コード	農薬名 (成分名 濃度)	希釈倍率	補正死虫率(%)			
			D個体群		E個体群	
			1日後	3日後	1日後	3日後
28	プレバゾンフロアブル5 (クロラントラニプロール 5%)	4,000倍	0	0	0	5.7
28	フェニックスフロアブル (フルベンジアミド 18%)	2,000倍	0	14.1	0	9.1
UN※1	プレオフロアブル (ヒリタリル 10%)	1,000倍	3.6	75.9	6.9	69.7
3A	トレボン乳剤 (エトフェンプロックス 20%)	1,000倍	0	8	0	2.6
15	ノーモルト乳剤 (テフルヘンズロン 5%)	2,000倍	0	15.4 ※2	0	0 ※2
5	スピノエース顆粒水和剤 (スピノサド 25%)	2,500倍	64.3	96.6	100	100
5	ディアナSC (スピネトラム 11.7%)	2,500倍	92.9	100	100	100
13	コテツフロアブル (クロルフェナピル 10%)	2,000倍	46.4	72.5	72.4	83.2
6	アフーム乳剤 (エマメクチン安息香酸塩 1.0%)	1,000倍	0	13.3	31.0	33.3

※1 UN: 作用機作が不明あるいは不明確な剤

※2 処理5日後の結果

供試虫: 佐賀市の大豆圃場から採集した2個体群。

試験方法: 直径9cmシャーレに湿らせたろ紙を敷き、クミテン5,000倍で希釈した薬液にを30秒間浸漬した6cm四方の大きさに切ったダイズ葉片を入れた。そこに人工飼料で飼育した3齢幼虫を1シャーレ当たり10頭を放飼した。試験は3連制で行い、25°C、16L-8Dで管理した。

連絡先: 佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840-2205 佐賀市川副町南里1088
TEL (0952) 45-8153 FAX (0952) 45-5085